



こいけ ともはる  
小池 知治 (リハビリテーションセンター長)

名古屋市立大学医学部卒。日本リハビリテーション医学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定医、日本リハビリテーション医学会指導責任者。脳卒中を中心に幅広くリハビリテーションに対応します。

リハビリテーションセンター長を務める小池知治医師は豊田市出身。当院への入職を機に28年ぶりに豊田市に戻った小池医師に、当院のリハビリテーションの内容や今後目指していきたいこととお聞きしました。

— 小池先生は当院への入職を機に、3年前、28年ぶりに豊田市に戻られたそうですね。久しぶりの豊田市の印象はいかがですか。

小池: 豊田市に帰ってきたころは、世界金融危機の前でトヨタ自動車の景気もよく、自動車で道が混んでいるなど思いました。昔はこんなに道は混んでいませんでした。

— それでは、小池先生のお仕事についてお聞きします。まず、医師を志したきっかけは何ですか。

小池: 自分が病気で病院にかかったときに医師の治療によって痛みが取れて、すごいと思ったことです。

— 数ある診療科からリハビリテーション科を専門に選んだのはなぜですか。

小池: 最初は、神経内科を選んでいて、神経内科医として脳卒中の

患者さんを多く診ていました。しかし、治療のみでは治らない障害が残るという現状に、治療の限界を感じていました。そんなときにリハビリテーションに出会ったのです。当時はまだ、専門医は少なかったのですが、治療では治らない障害に対するリハビリテーションを、自分の専門としてやっていたように思いました。



患者さまと相談しながらリハビリを進めていきます

— 当院で行っているリハビリテーションについてお聞かせいただけますか。

小池: 当院は、回復期リハビリテーションを主体に行っている病院です。脳卒中や骨折、急性疾患による廃用症候群(※)の治療後の回復時期に集中的にリハビリテーションを行い、日常生活動作の向上と自宅復帰を目的としています。

— 今後、当院のリハビリテーションで目指したいことは何ですか。

小池: 地域リハビリテーションを行っていきたくと思っています。病気や障害があっても、自分の住んでいる地域で生活していけるように、地域の中でいろいろな取り組みをしていきたくと思っています。その中で核になるのは、「回復期リハビリテーション」だと思います。当院は、内科や整形外科など

の医療のノウハウやリハビリテーションの専門スタッフを多数持っていますから、集約的・効率的な回復期リハビリテーションが可能です。そうした強みを生かして、地域リハビリテーションを行いたいです。

— 患者さまに一言メッセージをお願いします。

小池: 病気になって障害が生じて困ったときに、安心してお任せいただける病院であるようにしていきたいと思います。

※ 廃用症候群 = 肺炎等の治療時の安静状態が長期に続くことによって起こる心身の機能が低下した状態。

マイ  
小池先生のMyブームは  
“コーヒー”だそうです

